

研究・調査報告書

報告書番号	担当
245	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Effect of smoking and alcohol use during pregnancy on the occurrence of low birthweight in a farming region in South Africa. 南アフリカの農業地域における妊娠時の喫煙・飲酒が出生時低体重の発症に及ぼす影響	
執筆者	
Jackson DJ, Batiste E, Rendall-Mkosi K.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Paediatr Perinat Epidemiol. 2007 Sep;21(5):432-40.	
キーワード	
出生時低体重、母親の喫煙、母親の飲酒	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>本症例対照研究は、南アフリカの農業地域において出生時低体重の発症における危険因子を探ることが目的である。とくに危険因子として、母親の喫煙・飲酒それぞれ独立しておよび両者の組み合わせに重点を置いた。</p> <p>方法：</p> <p>分娩後の構造化面接および出生前、分娩中の診療記録よりデータを収集した。ある農業地域の紹介受け入れ型病院で行った。症例は出生時体重 2500 g 未満の 0 歳児 200 例で、対照は症例と同時期に生まれた出生時体重が正常である 0 歳児 200 例 (マッチングなし)。着目した結果は出生時低体重 (定義：出生時体重が 2500g 未満) である。</p> <p>結果：</p> <p>子宮内胎児発育遅延 (IUGR) の指標としての満期産での出生時低体重が全ての出生時低体重のほぼ 50% を占めていた。このことは本集団において IUGR の割合がかなりあることを物語っている。ほとんどが低所得者層である本集団においては、社会経済的因子は出生時低体重の予測因子とはならなかった。生活習慣関連の要因としては喫煙が出生時低体重ともっとも強い関連があった (調整オッズ比 2.67 [95% 信頼区間 1.69, 4.20])。アルコールと出生時低体重との関連は喫煙で調整すると統計的な有意差はなかった (調整オッズ比 2.15 [95% 信頼区間 0.80, 2.20])。しかしながら妊娠中に喫煙、飲酒の両者の暴露がある場合は調整オッズ比 4.24 [95% 信頼区間 1.01, 17.76] で有意となり、両者には相互作用があると思われた。</p> <p>結論：</p> <p>本地域において喫煙、飲酒などの生活習慣が出生時低体重の発症に関与しているのは明らかである。本地域における女性の喫煙、飲酒を減らすためには出産前および家族計画の一環としての総合的な健康増進プログラムを実行する必要がある。</p>	